

会 議 録

会議名	平成15年度第1回宇都宮市廃棄物減量等推進審議会	
開催日時	平成15年8月8日(金)午後2時00分から3時00分	
開催場所	宇都宮市役所本庁舎 14A会議室	
出席者	【委員】今井恭男, 金沢力, 金子和義, 篠崎光男, 中尾久, 金枝右子, 廣田宏子, 湯澤博, 児玉博利, 増子三男, 熊本範夫, 手塚修, 岡田季代子, 【事務局】森宇都宮市環境部長, 他15名	
公開・非公開	公開	
傍聴者数	なし	
議題	1 宇都宮市ごみ処理基本計画の改定について 2 その他	
会議結果	議題1	審議会で出された意見等を取り入れたうえで、「宇都宮市ごみ処理基本計画」の改定案の作成を進めていく。

発言要旨【議題1関係】	
児玉委員 (質問)	・ 資料1の7ページのグラフで, ごみ処理量が4%で増加すると, 16年度には処理限界を超えてしまうようだが, 本当なのか。
田中課長 (回答)	・ 当初の予想ではそのように予測はしていなかったのだが, 廃掃法の改正やダイオキシン類特別措置法の施行などの影響により, 予測を大きく上回ってしまった。 ・ 4%で増加し続けると, 16年度に処理限界を超えてしまうことは事実である。
中尾委員 (質問)	・ 一人一日あたりのごみ処理量が, 1ページで1,237g, 3ページで996g, 5ページで1,052gと一致しないのはどうしてか。
田中課長 (回答)	・ 1ページは, 11年度までの状態が続くと仮定した場合, 3ページは, 目標値, 5ページは資源化施策を取り組んでいった場合の予想となっている。
中尾委員 (質問)	・ それならば, 3ページと5ページのごみ処理量は一致してくるのではないのか。
金枝委員 (意見)	・ 違っていいのではないか。
岡本統括 (回答)	・ 3ページの数値は, 努力目標として減量化率を16%まで引き上げた状態の予測であり, 5ページの数値は, 4ページの減量化施策の効果予測をした場合である。
今井会長 (質問)	・ 7ページのグラフのAとBを予測と実績という関係でみた場合に乖離が発生しているが, Aの予測の組み立て方はどうだったのか。

岡本統括 (回答)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ダイオキシン関連法は、12年度に成立し14年度に本格施行となった。 ・ 施行までの猶予期間があり、その間に自家焼却の制限等があり、ごみ量が増えてしまっている。 ・ 計画策定時には、この状況を予想することができなかった。 ・ 7ページのグラフは、1市4町のグラフであるので、Bの実績の9割が宇都宮市のごみと見て、比較していただければと思う。
中尾委員 (質問)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 7ページのグラフで、BとCの中に減量化施策の効果を見込んであるのか。
岡本統括 (回答)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 14年度のごみ処理実績に、2%、4%をかけあわせただけの数値である。